

東日本大震災復興支援プロジェクト 第29回活動報告



1. 大鍋2機を使用して200食の豚汁を調理しました。 2. この日は肌寒かったこともあり、暖かい豚汁は来場者に変喜ばれました。 3. 震災後途絶えていた塩釜神社を祀る行事を復活させようと伝統の舞が披露されました。 4. こどもの日ということもあり、被災した子供たちによる夢が数多く展示されました。

「仙石線と伝統行事復活を」 復興祭で決意新たに。

今年度初めて（通算29回目）となる復興支援活動を5月5日、初参加者2人を含む総勢8人が参加して、宮城県東松島市で実施しました。

この日は同市・東名地区のふれあいセンターを会場に、震災以来不通になっているJR仙石線の早期復旧と、地元で長く親しまれてきた塩釜神社を祀る伝統行事の復活を祈念する復興祭が催され、当プロジェクトでは現地の意向に沿って豚汁200食を調理し、訪れた住民らに振る舞いました。会場には関東や九州などからも多くのボランティア団体が出店して祭りを彩りました。

主催者からは「今までは全国の支援者の全面協力で催事を行ってきたが、そろそろ地元住民が結集して立ち上がる時次回からは住民同士で協力し、お世話になってきた全国の皆さんに復興をアピールしよう」と話し、集まった住民らは復興への決意を新たにしていました。

3年間続いたプロジェクトとしての活動は、残り1回の予定です。

【参加者】藍陽子、鈴木大亮、佐藤浩市、阿部亮矢（総合企画課）、土方花重（総務課）、伊藤千花子（人事課）、伊藤節子（生産資材課）、松本新市（福祉課）、以上8人